

鈴鹿山脈 竜ヶ岳（1099m）

2012年1月22日(日) 曇り

L：磯部s、磯部n、川瀬、大竹

浜松から登山口まで、わずか2時間ちょっと。
そこから1時間も歩けば展望の開けた明るい雪山の世界に初級者でも入ることができる。
それが鈴鹿山脈北部のいいところだ。

宇賀溪キャンプ場駐車場にて仮眠。といっても5時間は寝れた。
朝、ここからすでに竜ヶ岳の白い頂上が見えて気持ちがいい。
遠足尾根は最近整備されたらしい。特にその尾根に上がるまでの新道は、林道からの取り付き点に真新しい道標、樹木にべたべたと貼り付けられた黄色と赤の太いテープと、完璧すぎて違和感がある。
きっと誰もがトライしやすい山域のため事故が多いのかもしれない。
道はジグザグ直登で、雪が融けてじゅるじゅるとなり、登りにくかった。



左奥が竜ヶ岳。遠足尾根が伸びている。



なだらかな竜ヶ岳山頂。
樹木とのコントラストに趣きある・・

遠足尾根に乗り上げると、一気に雪が増え次第に樹林帯は低木疎林となりやがて視界が明るく広がってくる。
遠く前方には丸く白い竜ヶ岳、それにつながっている長く緩い雪原のようなこの尾根は気持ちがいい。

四日市の町や伊勢湾までも遠望できる。 幸い天気は曇り、時には青空も垣間見られた。
残念ながらトレースは幾重にも重なっていて、1 m弱の積雪ながらしまっていることもあり、ワカンもアイゼンも必要なかった。
動物の足跡も幾つも見られ、自然探勝にも楽しみはひろがった。気温は高かったため、この山域の特色である樹氷は見られない。

右に藤原岳に続く稜線を分け、左にカーブし、直登するとお盆を伏せたようなピークにたどり着く。
遮る物はない、広い頂上だ。



新人若者二人。 なんだか、カッコいいな～



広い尾根（雪原に近い）を歩く……気持ちいい……

20人前後の登山者に会っただろうか、わかん、アイゼン、スノーシューなどをつけ、思い思いに楽しんでいる。
じきに寒くなってきたため下山。来た道に戻る。風の無い雪原の上で大休止、広くゆったりとした景色の中で幸せを感じる。
途中、70 mほどのロングシリセードに、初体験の新人は新たな楽しみ方を見つけたようだ。
練習のため、わかん、アイゼン、スノーシューをつける。スノーシューは雪の上を自在に駆け巡ることができ、より自由である。



コルまでシリセード！



ウサギの足跡が雪原の向こうに消えていく・・

遠足尾根から南に折れる新道への分岐で、東にそのまま直進して下りるトレース、新道を下る途中で左に分けるトレースと、遠足尾根に上がるための道はいろいろありそうだ。

逆に言えば荒天時には、広い尾根といい、ルートファインディングには注意が必要だ。

冷たい風の吹きさらし状態にもなると思う。標高が低いからといって侮ってはいけない。

阿下喜（あげき）のアジサイの湯では、同じく鈴鹿の御池岳から帰ってきた石津 k チームと偶然合

流。

一日の楽しみを分かち合う仲間がいることはいいもんだ。

<タイム> 宇賀溪キャンプ場駐車場（7:15）－遠足尾根新道取り付き（7:40）－竜ヶ岳
（11:40-11:55）－宇賀溪キャンプ場駐車場（15:30）

以上 磯部 s 記（写真提供：大竹、磯部 s）